

平成21年度 自己評価書・学校関係者評価書 学校名 (熊本市立秋津小学校)

■ 4-そう思う □ 3-どちらかといえば、そう思う □ 2-どちらかといえば、そう思わない □ 1-そう思わない

学校教育目標

1 教育方針・目標の理解	2 意欲的な学校生活	3 教師の連携協力
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。	子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。	学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員	保護者 教職員
【学校から】学校の教育方針についてはPTA総会や学校便り（保護者・地域）で校長が説明をして理解を図っている。それを受けて各担任は学年、学校便り等で家庭にお知らせをして、連携を図っている。特に本年度も重点目標である「あいさつ運動の充実」について、各学期ごとに学校全体で取り組み、児童の意識が60%を超え高まりが見られる。保護者や地域の方々からも秋津小学校の児童のあいさつのおかげで褒め言葉の言葉を頂いている。今後も保護者、地域に学校が行っている教育活動を発信して、連携の強化を図っていきたい。		

教科指導

4 授業づくりの工夫	5 意欲的な学習態度
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員
【学校から】校内研修で研究授業や公開授業に取り組んできている。本年度は新教育課程の移行期間ということもあり、各教科（国語、算数、理科、外国語活動、図工、体育など）で研究授業に取り組んだ。授業参観では、道徳や「性に関する指導」などを公開した。4、5とも保護者・児童とも高い評価を得ているが、教職員の評価に差が見られる。更なる授業づくりの工夫や意欲的に学習できる授業の改善に努め、研修を重ねていきたい。	

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実
子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員
【学校から】総合的な学習の時間が減ったが、どの学年も内容の精選を行ったことで、児童の意欲的な探求的な活動につながった。今後も、自ら課題を見つけ、追究していきようなテーマや内容の見直しをしていきたい。

道徳教育 心の教育

7 道徳、心の教育の充実	8 あいさつ、礼儀の励行
学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に努めていると思いますか。	子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員
【学校から】7 心の教育の充実に関しては、保護者・児童とともに昨年度とほぼ変わらない結果となったが、教職員は昨年度より「心の教育」が「よくできている」という数は増えているが、「あまりできていない」という数も増えており、取組に個人差が見られた。学年単位で道徳の充実に努めることが必要であるとする。 8 あいさつについては学校全体での継続的な取組が実を結んできたようで、児童や教師の意識はさほど昨年度と変わらない。ただ、保護者の「あいさつがきちんとできている」という評価が昨年と比べるととも増えている。今後とも取組を続けていきたい。	

人権教育

9 一人一人の生徒の尊重	10 友だちへの思いやり
学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員
【学校から】10「友だちへの思いやり」について児童は友達同士仲良くできていると思う。怪我をしたときなど、やさしい声かけができています。「一人一人の児童の尊重」の項目で児童からよい結果が出たことは嬉しいが、保護者の方へ充分伝わっていないようである。今後、保護者とのコミュニケーションをしっかりとっていかねばならない。	

特別支援教育

11 学校の支援体制
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 教職員
【学校から】校内支援委員会を定期的に開催し、校長を中心として、特別支援コーディネーターが支援体制等情報交換に努めてきた。今後も職員間の共通理解を図りながら特別支援教育を進めていきたい。

生徒指導 教育相談

12 生徒理解	13 規範意識	14 いじめや問題への対応
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。	子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。
0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%	0% 20% 40% 60% 80% 100%
保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員	保護者 児童 教職員
【学校から】11月にいじめアンケートを実施し、いじめられていると答えた児童にはいじめが解消されるまで、聞き取りや教育相談を行ってきた。当然、いじめている児童にも指導を行ってきた。その他にも学級で問題が生じたとき、すぐ対応するようにしている。児童の数値の高さはそのことが表れているのかもしれない。ただ、今後も教職員が高いアンテナを張り、いじめは許されないと強い意志を持って指導に当たることが重要である。13については、規範意識が低いと思われる場面が日常生活の中でも見受けられる。道徳教育や日常の指導を充実するとともに、家庭・地域との強固な連携を構築していくことが課題である。		

健康教育 安全		学校行事
15 安全と事故防止 学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。 	16 体力向上 子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。 	17 学校行事への参加と工夫 学校では、運動会や校内音楽会などの学校行事が工夫されていると思いますか。
<p>【学校から】本年度、握力・柔軟性・瞬発力に劣りが見られた。この結果は怪我の発生率にも非常に関係していることも保健室の統計からわかった。今後は保護者（家庭）とも連携協力を仰ぎながら体力向上の取組を継続していきたい。学校での外遊びは随分増えてきたと思われるが、それでも全校児童の割合からは外遊びが少ないと教職員は見ていると思われる。</p>		<p>【学校から】学校行事に対する児童の意識が相当数、高まっている。120周年ということで家庭や地域と連携して、保護者が創意工夫した運動会を実施した。今後も参加意識を持てるよう実施していく。</p>

学校環境		
18 環境の整理・美化 学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。 	19 施設・設備の安全管理 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。 	<p>【学校から】運動会前の整備等ではPTAや地域のボランティアの方の協力で年々学校が整備されている。卒業式や入学式を飾る花々も児童の一人一鉢の活動のもと、絶えることなく育てられている。また毎月安全点検を実施し、施設設備の安全管理に努めている。アルミカンのリサイクルも各家庭や地域の方々の協力で1万個以上集めることができた。また大型廃棄物については男性保護者の会の協力を頂きながら撤去した。本校では落葉の量が大変多いので、落葉を集めて「落葉の小道」と称して木々の周りに捨てている。児童に落葉を踏み経験をさせたり、落葉の下にもぐっている昆虫探しをしたりして自然体験の場に役立たせている。また大量の落葉があるので、活用できるように堆肥置き場も本年度新設した。</p>

情報の公開・発信		家庭・地域との連携
20 学校の予定等がわかる情報発信 学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。 	21 教育活動への参加 学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。 	22 家庭や地域との連携協力 学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>【学校から】授業参観などの案内を保護者、地域の方に1ヶ月前には案内をしている。早いうちに情報を知りたいと言われる方が増えているので、次月の予定を載せたりしているが、来年度は4月の段階で学校の1年間の主な行事と日程を配布したいと考えている。ただ、20.21について「どちらかといえばそう思わない」の数値が相当数あることに留意して、学校の情報発信が効果的にされるよう創意工夫していきたい。</p>		<p>【学校から】学校便りや学級便りで家庭に連絡して連携を図ったり、必要に応じて協力を依頼しているが、2の段階があることを踏まえながら今後も連携をとりながら教育活動を進めていく。</p>

(学校独自)	
23 「あかるく きもちよい あいさつ」の励行 学校は「あかるく、きもちよいあいさつをしよう」を取り組んでいます。効果が上がっていると思いますか。 	
<p>【学校から】児童、保護者、教職員の数値が高くなっていることがわかる。「立ち止まってあいさつ」など確実にあいさつ運動の効果が現れている。地域の方々や郵便配達の方から「秋津の子どものあいさつが嬉しい」と報告を受けている。</p>	

来年度の具体的な取り組みについて
<p>○「あいさつ運動」の更なる充実 あかるく きもちよい あいさつ（あきつ）の一環として、「あいさつ運動」の充実を図ってきたい。「立ち止まってあいさつ」「お辞儀しながらあいさつ」「家庭での家族へのあいさつ」「地域へのあいさつ」横断歩道でのあいさつ等具体的な児童の行動目標を定めながら、本年度取り組んできたが、来年度も継続して取り組んでいきたい。年3回の「あいさつ運動」では、PTA、地域の協力のもと、学校全学級児童が輪番で校門に立っている。PTAからタスキを寄贈してもらっているものを使って活動をしているが、参加人数が増え、タスキの数が少ないので学校で購入するなどの工夫が必要であると考えている。</p> <p>○日課表の見直しによる教育課程の充実 本年度新型インフルエンザの流行により、学級閉鎖を余儀なくされ、授業時数の確保の問題などが課題となった。本校では授業時数は不足していないが、児童の基礎学力の定着という観点から鑑みて、例えば校内研修等の時間を授業に組み入れる等、日課表の見直しを図っていく必要がある。</p> <p>○「体力向上の取組」の継続 本年度、熊本市体力向上実践校に指定され、サーキットの整備、業間体育の実施（なわとび、持久走大会）など取り組んできたが、来年度も引き続き、体力向上については取り組んでいく。校長がPTA役員会で協力をお願いしたり、学校保健委員会で保護者に家庭での協力を呼びかけた。学級懇談会で学校保健会資料を全家庭分印刷して配布した。</p>

学校関係者評価
<p>○いじめ・不登校の撲滅・根絶についての取組を続けてほしい。学校はアンテナを高くして、いじめのないさらには楽しい学校にしてほしい。</p> <p>○学校評価の説明があったとおり、設問のほとんどが概ね3、4の評価が多く、高い評価ではあるが、2、1の評価「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えている保護者、児童が、どの設問においても少数いることを真摯に受け止め、今後その数値を減少させる取組（対策）を講じる必要がある。</p> <p>○この学校評価書を見て感じるのは、規範意識の育成などいうまでもなく家庭教育が重要であるということである。授業づくりや体力向上の面においても、日常的な家庭との連携・協力体制が不可欠である。</p> <p>○業間の「秋津ピピカ大作戦」において教室等を掃除したり、整理整頓をする子どもたちの様子を見せてもらった。柵の中の本類などを黙々と片付けていて、秋津小学校の子どもは心も育っていると感じた。</p> <p>○「外国語活動」の授業を見るのができなくて少し残念だったが、学校長の説明を聞いて、小学生のうちに英語を学習することはとてもいいと思った。英語を話すことはこれからの時代には欠かせない。子どもたちは飲み込みが早いので楽しんだ。</p> <p>○家庭での挨拶がとても大事である。家庭でできる子どもは、外でもあいさつができる。やはり家庭教育の担っている部分は大きい。</p>

- 教職員
- 保護者
- 児童

